

平成20年度 地方の元気再生事業 事業実施調書

(1) 取組名	ふるさと秩父の創造 四季を彩る おもてなしのまちづくり		
(2) 実施団体名	ちちぶ夢創りおもてなし協議会	(3) 対象地域	埼玉県秩父市
(4) 代表団体名	秩父市	(5) 推薦団体名	

(6)実施した取組の内容	取組①	秩父ジオパークの形成		
	実施主体	ちちぶ夢創りおもてなし協議会		
	実施内容、 実施結果	当初提案により予定していた計画		実際の取組内容及びその結果
		<ul style="list-style-type: none"> ・実施内容: 魅力ある散策コースの策定、地域資源の活用調査、市民学芸員の養成研修 ・実施時期: 平成20年9月～平成21年2月 ・取組の目的: 地域資源を有機的に結びつけた魅力ある散策コースを検討し、幅広く活用され誘客促進が図れるよう、自然環境資源や歴史・文化などの地域資源を素材として、住民がおもてなしの心でこれらの資源を案内できる「温もり観光ガイド」の養成を行う。 		<ul style="list-style-type: none"> ・実施内容: 魅力ある散策コースの策定、地域資源の活用調査、市民学芸員の養成研修 ・実施時期: 平成20年9月～平成21年2月(散策コースの策定、地域資源の活用調査、市民学芸員の養成研修) ・取組の結果: 地域資源の把握、予定コースの調査及び安全確認を実施しながら、浦山ブナ林エコルート、寺沢エコルート、新三峰歴史の道、江戸巡礼古道など、特徴ある散策コースを10コースを構築した。 ・自然環境資源や歴史・文化などの地域資源を素材として、住民がおもてなしの心でこれらの資源を案内できる「温もり観光ガイド」の養成することができた。
	取組②	観光・交流・体験プログラムの構築		
	実施主体	ちちぶ夢創りおもてなし協議会		
	実施内容、 実施結果	当初提案により予定していた計画		実際の取組内容及びその結果
		<ul style="list-style-type: none"> ・実施内容: ファシリテーターの養成、サイクリングコースの策定、都市住民の交流居住推進による地域活力強化事業 ・実施時期: 平成20年9月～平成21年2月 ・取組の目的: ファシリテーターの養成、サイクリングコースの策定、都市住民の交流居住推進による地域活力強化調査など、魅力的な観光・交流・体験プログラムの構築と新しい分野のツーリズムの形成を行う。 		<ul style="list-style-type: none"> ・実施内容: ファシリテーターの養成、サイクリングコースの策定、都市住民の交流居住推進による地域活力強化事業 ・実施時期: 平成20年9月～平成21年2月(ファシリテーターの養成、サイクリングコースの策定、都市住民の交流居住推進による地域活力強化調査) ・取組の結果: 秩父ミュージズパークに「森のキャンパス構想」の中核として整備した、冒険の森の利用体験者を支援するファシリテーターを養成した。 ・「自転車のまち秩父」を構築するため、広域的に25コースの調査を行い、20コースの新たなサイクリングコースを策定し、基盤ができた。 ・都市住民の交流居住推進による活力強化のため、都市住民のニーズ把握及び受け入れ側の秩父市内の空き地、空き家などの調査を行い受け入れ体制の確立ができた。
	取組③	地域資源を活用した魅力アップ		
実施主体	ちちぶ夢創りおもてなし協議会			
実施内容、 実施結果	当初提案により予定していた計画		実際の取組内容及びその結果	
	<ul style="list-style-type: none"> ・実施内容: 燃料チップボイラー実証実験、地産地消によるブランド構築 ・実施時期: 平成20年9月～平成21年2月 ・取組の目的: 木質資源を燃料等に有効使用し、地球温暖化対策、雇用の創出、地域産業の振興に資するため、燃料チップ利用の活用範囲を拡大するため、チップボイラーを使った農業用ビニールハウスへの原油代替の熱利用に関する実証実験を行う。遊休農地の解消を視野に入れ、地元産の食材を使った特産お菓子の開発など地域資源を活用した秩父ブランドを確立する。 		<ul style="list-style-type: none"> ・実施内容: 燃料チップボイラー実証実験、地産地消によるブランド構築 ・実施時期: 平成20年9月～平成21年2月(燃料チップボイラー実証実験、地産地消によるブランド構築) ・取組の結果: 木質資源を燃料等に有効活用するため、イチゴ栽培ハウスでのチップボイラーの原油代替の熱利用による実証実験を実施した。 ・地産地消によるブランドの構築として、遊休農地にパン用小麦や砂糖大根を栽培し、できたものを活用して新たな特産品の開発(秩父産の食材を使った、オリジナル菓子)やパンの試作を行った。 ・秩父地域の風土や習慣とともに、秩父で生産された農作物を使った四季折々の食材を選定して創作料理のメニュー開発するにあたり、秩父農工高フードデザイン科との連携が図られた。 	

(7)実施体制	平成20年度の取組実施における体制・役割分担		取組の実施を踏まえた反省点	
	ちちぶ夢創りおもてなし協議会(構成団体22団体)を組織し、分野毎の委員会で、企画検討、調査実施を行った。		取組の内容ごとに、協議会を構成する個別団体が中心的に活動することは出来たが、直接、調査実施に携わらない団体の役割が明確化されていなかった。構成団体との活発的な意見交換を実施し、地域活性化のために応用していくよう努めたい。	
(8)取組により得られた成果	○成果1→	点在する地域資源を有機的に結びつけた「秩父ジオパーク」の形成により「市民学芸員」(温もり観光ガイド)を養成する。さらに遊休農地の解消を視野に入れ、地元産の食材を使った特産お菓子の開発など地域資源を活用した秩父ブランドを確立する。		
		H19	H20(当初予定していた目標)	
		市民学芸員数(温もり観光ガイド) 0 遊休農地面積173ha	市民学芸員数(温もり観光ガイド) 地域ごとに10名(5地域) 遊休農地面積156ha	
		H20(実際に得られた成果)		
		市民学芸員については、温もり観光ガイドとして、予定数以上の57名を養成することができた。また、パン用小麦、砂糖大根などの栽培により、オール秩父産の特産品を開発するための調査については、概ね良い結果が得られ、今回の調査の植栽以外にも特産物であるソバの植栽、除草などによる農地への復元(土地改良も含む)、市民農園や花の植栽などの多面的利用などにより、遊休農地の解消をしつつ、秩父ブランドを構築することができた。創作料理のメニュー開発については、検討していく中で、秩父農工高フードデザイン科との連携が図られ、大切な秩父の食文化を次世代に受け継いでいく良い機会となり、若い世代と意見交換を実施することができた。(当初予定の遊休農地面積:173ha→取組みを中心とした、H20の遊休農地面積:148ha 遊休農地減少面積25ha)		
	○成果2→	魅力的な観光・交流・体験プログラムの構築と新しい分野のツーリズムの形成を行う。また、効率的な地域エネルギーの研究や秩父ミュージアムパークを核とした森のキャンパスにより環境教育と産業振興を実現する。		
	H19	H20(当初予定していた目標)		
	秩父市の観光入込客数 4,638,300人	秩父市の観光入込客数 5,300,000人		
	H20(実際に得られた成果)			
	平成20年の観光入込客数については、現在調査中であるが、秩父札所巡りの入込客と、和銅奉獻1300年を記念した、和銅遺跡の入込客のデータを確認したところ、札所については、日本百観音報恩開帳の効果もあり、3月～7月のH19年の入込客4万3786人に対し、H20年8万2065人の入込を数えた。また、和銅遺跡見学者をみても、和銅奉獻1,300年イベントにより、H19年の1,500人に対し、H20年3,500人と大幅に増加した状況であり、目標数値をクリアできるのではないかと期待している。(当初予定の観光入込客の伸び:1.14倍→札所、和銅遺跡の観光入込客の伸び平均:2.1倍) また、今回の取組において、サイクリングコース、散策コースが策定でき、構築に向けて基盤ができたため、今後も大いに活用されると考えられ、誘客の促進を図りたい。効率的な地域エネルギーの研究は、農業ハウスでの燃料チップボイラーの実証実験は、おおむね良い結果がでたが今後に向け課題等があり、継続的に実証実験をする必要がある。			

<p>(9)今年度の取組成果や活動を踏まえた反省点、改善点</p>	<p>・「ちちぶ夢創りおもてなし協議会」の担当委員会構成を見直し、調査結果が地域活性化のため、多方面で活用できるようにしていく必要がある。また、秩父市だけの問題として捉えるのではなく、より広域(秩父郡内)的に取組を展開していくことで、目標達成に近づけたい。</p> <p>・遊休農地の解消を目標にした、砂糖大根や小麦など秩父産品の農作物を栽培し、オリジナルのお菓子等を開発したり、創作料理メニューを開発したりする取組みについては、農商工連携による事業として元気再生事業として進めたことを拡充し、秩父発による全国展開を模索する必要がある。</p> <p>・安定した供給システムの構築を図るため、農業ハウスでの燃料チップボイラーの利用を促進し、特産菓子販売施設の設置、特産品加工施設の建設を促進すべきである。</p> <p>・都市住民の交流居住促進による地域活力強化のための調査については、都市住民が秩父に求めるニーズの把握、受け入れ側の空き農家、空き農地などのデータを蓄積できたので、これを活用していくためのシステムを引き続き構築する必要がある。</p>	
<p>(10)平成21年度以降の活動の見込み</p>	<p>当初提案に予定していた平成21年度以降の展開</p> <p>市民学芸員の認定(平成21年度)</p> <p>・秩父ジオパークの形成に向けた取組の継続</p> <p>ブナ林散策コース、花と里山景観コース・健康薬樹の森コースの整備(平成21年度)</p> <p>・秩父ジオパークの形成に向けた取組及び観光・交流・体験プログラムの構築の継続</p> <p>サイクルパークやサイクリングコースの整備(平成21年度)</p> <p>・観光・交流・体験プログラムの構築及び地域資源を活用した魅力アップの継続</p> <p>クロスカントリーコースの整備、森のキャンパス研修施設の建設、遊休農地活用型滞在施設の建設、農家レストラン直売所、特産菓子販売施設の設置、特産品加工施設を建設。農業ハウスでの燃料チップボイラーの利用促進(平成21年度～)</p> <p>当初提案になし</p>	<p>今年度の取組状況を踏まえた平成21年度以降の活動の見込みと活用を希望する支援制度</p> <p>市民学芸員の認定</p> <p>・実施主体:ちちぶ夢創りおもてなし協議会(秩父市ほか)</p> <p>・当初の取組みについて予定人数を確保。今後、活用方を練り上げるとともに、元気高齢者を中心に認定者を増やす。また、ジオパークの形成に向けて推進体制を強化するとともに、フォーラム等を開催するなど住民意識の昂揚を図る。</p> <p>【活用を希望する制度:上記について地方の元気再生事業の継続支援を希望(想定金額300万円)】</p> <p>ブナ林散策コース、花と里山景観コース・健康薬樹の森コース整備</p> <p>・実施主体:ちちぶ夢創りおもてなし協議会(NPO秩父まると博物館、NPOちちぶまちづくり工房ほか)</p> <p>・みどりの埼玉づくり県民提案事業を活用して、ブナ林解説板、多摩地域との生活交易の解説板及び指導標などを設置することが出来るなど、3コースとも前倒しでルート構築できた。今後、ルート設定したコースを活用したウォーキングイベントを開催してまいりたい。</p> <p>・設定したウォーキングコースについて外国人の誘客を図っていくため、3ヶ国語に対応したマップを作成したい。</p> <p>【活用を希望する制度:外国人向けマップ作成について地方の元気再生事業の継続支援を希望(想定金額300万円)】</p> <p>サイクルパークやサイクリングコースの整備</p> <p>・実施主体:ちちぶ夢創りおもてなし協議会(荒川ダム水源地域ビジョン推進協議会、秩父サイクリング実行委員会ほか)</p> <p>・秩父市大滝に建設した「滝沢ダム」の原石山跡地の活用計画として、具体的な計画案が提示され、この周辺で大規模サイクリング大会を実施予定。今後、当市の有する起伏の激しい地形を考慮し、電動アシスト自転車を用いたレンタサイクル事業の実現性について、実証実験により把握・検証したい。</p> <p>【活用を希望する制度:電動自転車実証実験について地方の元気再生事業の継続支援を希望(想定金額400万円)】</p> <p>クロスカントリーコースの整備、森のキャンパス研修施設の建設、遊休農地活用型滞在施設の建設、農家レストラン直売所、特産菓子販売施設の設置、特産品加工施設の建設及び農業ハウスでのチップボイラーの利用促進。</p> <p>・実施主体:ちちぶ夢創りおもてなし協議会(FIND Chichibu食文化分科会、お菓子な郷推進協議会ほか)</p> <p>・地域資源を活用した魅力アップとして、お菓子、創作料理などのメニューについて開発したものを今後、特産品の販路拡大に向けて、安定した供給システムの構築についての研究をする。</p> <p>・燃料チップボイラーの実証実験は、農業ハウスではおおむね成果がでたものの、通年で利用できる施設にて継続的に実証実験をする必要がある。</p> <p>【活用を希望する制度:特産品の安定した供給システムの構築や燃料チップボイラーの実証実験について地方の元気再生事業の継続支援を希望(想定金額600万円)】</p> <p>都市住民の交流居住促進による地域活力強化</p> <p>・実施主体:ちちぶ夢創りおもてなし協議会(FIND Chichibuちかいな分科会ほか)</p> <p>・都市住民が秩父に求めるニーズや、受け入れ側の空き農家、空き農地などのデータを蓄積できた。今後は、これを活用していくためのシステムを構築したい。</p> <p>【活用を希望する制度:上記について地方の元気再生事業の継続支援を希望(想定金額300万円)】</p>

◆主な実施取組の内容◆

取組①「秩父ジオパークの形成」

実施主体:ちちぶ夢創りおもてなし協議会

実施内容・結果:地域資源の把握、予定コースの調査及び安全確認を実施しながら、浦山ブナ林エコルート、寺沢エコルート、新三峰歴史の道、江戸巡礼古道など、特徴ある散策コースを10コースを構築した。

・自然環境資源や歴史・文化などの地域資源を素材として、住民がおもてなしの心でこれらの資源を案内できる「温もり観光ガイド」の養成することができた。



浦山ブナ林エコルート散策



温もり観光ガイド講座の様子

取組②「観光・交流・体験プログラムの構築」

実施主体:ちちぶ夢創りおもてなし協議会

実施内容・結果:秩父ミュージアムパークに「森のキャンパス構想」の中核として整備した、冒険の森の利用体験者を支援するファシリテーターを養成した。

・「自転車のまち秩父」を構築するため、広域的に25コースの調査を行い、20コースの新たなサイクリングコースを策定し、基盤ができた。

・都市住民の交流居住推進による活力強化のため、都市住民のニーズ把握及び受け入れ側の秩父市内の空き地、空き家などの調査を行い受け入れ体制の確立ができた。



ファシリテーターの養成研修の様子



サイクリングコースの策定の様子

取組③「地域資源を活用した魅力アップ」

実施主体:ちちぶ夢創りおもてなし協議会

実施内容・結果:木質資源を燃料等に有効活用するため、イチゴ栽培ハウスでのチップボイラーの石油燃料代替の熱利用による実証実験を実施した。

・地産地消によるブランドの構築として、遊休農地にパン用小麦や砂糖大根を栽培し、できたものを活用して新たな特産品の開発(秩父産の食材を使った、オリジナル菓子)やパンの試作を行った。

・秩父地域の風土や習慣とともに、秩父で生産された農作物を使った四季折々の食材を選定して創作料理のメニュー開発するにあたり、秩父農工高フードデザイン科との連携が図られた。



砂糖大根の栽培



創作料理「秩父の玉手箱」

◆取組実施による成果・今後の展開◆

取組実施による成果:市民学芸員については、温もり観光ガイドとして、予定数以上の57名を養成することができた。また、創作料理のメニュー開発については、検討していく中で、秩父農工高フードデザイン科との連携が図られ、大切な秩父の食文化を次世代に受け継いでいく良い機会となり、若い世代のとの意見交換ができた。

今後の展開:事業の取組の成果を高めるため、秩父圏域(1市4町)の広域で展開することで、さらに地域全体の活力を増していきたい。また、今回開発した地域資源を活用した「秩父ブランド」を全国展開も視野に入れ検討し、地域経済の活性化を図りたい。